

## 正副議長定例記者会見（令和7年12月定例会）

日 時：令和7年12月17日（水）14:30～14:45

場 所：観光スポーツ文教警察委員会室

福羅議長



大西副議長



（毎日新聞社：幹事社）

定刻になりましたので、正副議長の記者会見を始めさせていただきます。なお、議長は次の公務がありますので、記者会見の時間は14時50分までとさせていただきます。

まず初めに、議長からご挨拶をお願いします。

（議長）

今年最後の定例会となる12月議会を閉じましての、定例記者会見ということで、よろしくお願いたします。

今議会におきましては、12月補正予算において、冒頭提案された人事委員会勧告に基づく給与改定経費や、県試験研究機関等の機能強化などの当面措置が必要な経費について議決されたというところでございます。

また、本日追加提案された総合経済対策関係追加予算も滞りなく議決することができ、今後、物価高騰対策や防災・減災対策などが迅速に進められていくことを期待したいというふうに考えております。

さて、この12月から中村知事の4期目最後の年となっており、これまで、知事が掲げられた公約の実現に向けて、中村知事も着実に歩みを進められているというふうに考えております。県議会としても、二元代表制の一翼として、県民の皆様の声を県政に届けますとともに、県政のチェック機能をしっかりと果たしながら、愛媛県のさらなる発展に向け、互いに切磋琢磨していきたいと考えております。

以上、簡単ではありますが、冒頭のあいさつとさせていただきます。

（毎日新聞社：幹事社）

続いて副議長お願いたします。

（副議長）

お疲れさまでございます。

今定例会では、原子力防災対策向上への取組をはじめとする災害への備え、AI人材の確保・育成や県産柑橘の販売促進に向けた取組など、多くの課題につきまして活発な質疑が展開され、十分な議論があったというふうに評価しております。

また、議長のあいさつにもございましたが、総合経済対策関係追加予算が提案され、生活者や事業者の負担軽減・影響緩和をはじめ、中小企業や農林水産業等県内産業の経営基盤の強化、地域の実情を踏まえた本県独自の対策や、医療・介護・障がい福祉分野における処遇改善の支援、迅速な対応が必要となります物価高騰対策や県民の安全・安心の確保に向けた防災・減災対策など、国の経済対策等をしっかりと実施していくために必要な予算が円滑に議決でき、安心しております。簡単ではございますが、私からは以上です。

(毎日新聞社：幹事社)

ありがとうございました。代表質問がありますので確認したいと思います。

今年最後の12月定例県議会が閉会しました。今年は議員定数の削減など、様々な議論がなされましたが、議長、副議長は今年の県議会の議論をどのように総括されますでしょうか。

まず議長からお願いします。

(議長)

はい、議長に就任させていただいてから3回目の定例会ということになりました。6月と今12月においては大型の補正予算が計上されまして、主に物価高騰対策ということで、昨日、国で可決されて今日ということで、理事者の方々は本当に大変だったと思いますけれども、我々も一生懸命勉強して迅速に可決できたのではないかなというふうに思っています。

県民の皆様にともしっかりとした予算をお届けしたいという思いでやらせていただいていますけれども、今後もスピード感を持って対応していきたいというふうに考えています。

おっしゃられた議員定数については、各地域によって、また、議員の立ち位置によっても色々と考え方があると思いますが、11月に行われた第3回の特別委員会においては、削減をしていくということが決まりまして、非常に重い決断になったかなというふうに考えております。この特別委員会において、引き続き議論を尽くしていただき、その中でしっかりと結論に導いていただきたいとそのように思っています。

(毎日新聞社：幹事社)

ありがとうございます。続いて、副議長お願いします。

(副議長)

はい。国では内政外交で非常に波乱の多い1年だったと思いますが、愛媛県を見ますと大きな混乱もなく円滑な議会運営を行うことができ、当面の県政の諸課題の対策についても十分な議論を果たすことができたというふうに思っています。

愛媛県では、来年以降に全国植樹祭やVelo-city、国民文化祭などの大きな行事が控えていますので、こちらにつきましても十分な議論が深まったのではないかとこのように思っています。

(毎日新聞社：幹事社)

ありがとうございます。ただいまのお答えにつきまして、質問があればお願いいたします。質問に際しては社名と記者名をお願いいたします。

(愛媛新聞社)

改めて議員の定数削減の話が先程ありましたけれども、削減方針が決まったことに対するご所見というところと、今後、再来年の統一地方選に向けてどういったスケジュール感をもって議論してほしいかということをお聞かせください。

(議長)

削減というのは、我々議員から考えると、地域の声を吸い上げて住民の声を届けるというのが仕事ですから、その頭数を減らすというのは基本的には住民の立ち位置からすると削減をすべきではないという考え方があると思うんですね。ただし、国勢調査結果の公表は来年の5月になりますが、試算によると人口がかなり減ってきているということがあります。その人口の度合いを見ますと、議員の数も減らしていくべきというご意見もございまして、そのあたりのせ

めぎ合いだと思うんですね。

現状で見ると、定数4ある宇和島市よりも定数3の四国中央市の人口が多いという状況がありまして、ここで決定するわけではありませんが、人口の状態を見て少し逆転現象なんかも起きている中で、削減はしていくべきではないかという結論に至ったんだと思います。どれぐらいの削減にするか、あるいはどの地域にするかというのは、これからの議論で決定していくことですので、各地域間、議員の立ち位置、これからの人口動態を見極めて、しっかり議論していただいて結論を出していただきたいと思っています。この結論が一番重い決断になると思いますので、これについて決定をしていければと考えているところです。

再来年の4月に統一地方選挙がありますけれども、スケジュール感でいくと、来年の5月に国勢調査の結果が出て、6月の定例会あたりでの決定ということをお願いするべきではないかというふうに考えておりますので、そういうスケジュール感をもってこれから臨んでいきたいと思っています。

(副議長)

基本的に同じですが、議員定数は非常に重要で大きな課題であるのは言うまでもありません。そういった中で、議員の中にも地域の町民、市民、県民の声を届けるということで現状が良いという声も、議員定数は減らすべきだという声も、両方があるということも事実かと思っています。

愛媛県も国に対して人口が減ったから地方の定数を減らすことは反対というようなスタンスでありますので、議員でも十分な議論を、方向性としましては定数減ということが委員の議論で聞こえますので、これからより一層、委員の皆様には客観的なデータを基に、しっかりと地域の声も反映した中で、様々なシミュレーションも考えながら十分な議論を深めまして、今後の方向性を決定していただけたらなと思います。

(毎日新聞社：幹事社)

その他の質問がございましたら、お願いします。

(愛媛新聞社)

先程の挨拶の中であつたんですが、中村知事の任期が残り1年を切ったというところで、3年間の知事の県政運営というところの評価、残り1年に向けてこのあとどういったところを議会として求めるのか、どういう姿勢で臨んでいくのかそのあたりをお聞かせいただければと思います。

(議長)

コロナ禍から脱して、経済も復活していかなければいけないというところで、今の経済情勢を見ますと、以前から何か仕込んできていないとなかなか実を結ばないというのが行政的にも政治的にもありまして、我々の評価としては中村知事に色々なものを仕込んできていただいて、少しずつそれが花開いていっているような気がしています。

私も議長に就任させていただき、6月にポーランドへ行かせていただいて、Velo-cityという自転車推進施策の会を開いているんですけども、これを2年後に愛媛県でやるということで、世界各国から1,500人が来てくれるということで、自転車施策の駐輪場をつくったり、自転車道路を作ったり、健康施策を推進したり、そういうことができていますので、それを次々に実現していったら、サイクリング大会もそうですし、いろいろな取組をされている中で、我々県議会としてもそういったことを受けて決定していければというふうに思います。

(愛媛新聞社)

これまで仕込んだ施策の花開くというところの一例として自転車施策があがりまして、他に2、3あげるとするとどういった施策が成果を結んでいると思われませんか。

(議長)

来年、全国植樹祭があります。これも仕込んでいないとできませんし、国民文化祭もありま

すし、次々といろいろなものを行っていますので、この間の日本スポーツマスターズ 2025 愛媛大会もそうですね。そういったものを行っていかないとインフレ基調の世の中になってくると財政健全を求めてやっていかないと、なかなか次の手立てがなくなっていくというか、元気を出していくものが何も見当たらないということになりますので、そういった意味で県民のためになるいろいろな施策をしていただいているかなと思います。今後の物価高騰対策についても、真にインフレを助長するというのではなく、本当に困っている方にしっかりと手が届くような施策を期待したいです。

(愛媛新聞社)

もう1点ですが、広島県を中心に牡蠣の大量死がありましたけれども、愛媛県でも牡蠣の養殖をされている事業者がいらっしゃいますけれども、県議会として何か求めたり、アクションは考えていますか。

(議長)

私の地元である大三島、そして愛南町と大きな被害が出ていて、大三島は広島県の業者さん、愛南町は地元の業者さんということで大量の被害が出ているということでございます。今、被害状況を把握しているところですので、被害額が出た状況で、どのような支援が必要なのか調査して、今地元の議員さんも動いていますので、それに対してしっかり国とも連携してやっていければなというふうに思っております。

(毎日新聞社：幹事社)

その他の事項について質疑ありますでしょうか。

以上で正副議長の記者会見を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。